

一凜月刊

書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



No.4

2018年3月

夢は美一ヨガよ、
希望は高キガよ、
夢も希望も捨てなければ
必ず近づくべし

刻ムゲヨ、



目的は高キガよ、そのための
一里塚ノイ目標を定ムゲヨ、
ナクそのために時を

月刊一凜 No.4〈2018年3月〉

《競書審査員》佐々木峯雲 《競書審査助手》小川大心 《発行》書道教室 一凜 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

人の長を以て我が長を継がんと欲するなれ。
人の光を借りて我が光を増さんと欲するなれ。
日の光を藉りて照る大いなる月たらんよりは、
自ら光を放つ小さき燈火たれ。

自主と独立を説いた言葉です。

日の光を籍りて照る

たゞなる月たゞしより

自ら光を放つ

小さき燈火たれ

森鷗外

佐々木峯雲

人は大きな組織の中では、その力を自分の力と錯覚しがちです。
また、寄らば大樹の蔭というように、何かの大きな力に頼りがちです。
「虎の威を借りる狐」のような虚榮心を持つことなく、
自分なりの信念をも持つて自分なりの生き方をしましよう。
そして、小さくても自分の実力を發揮することができます。
何より尊いということ、だそうです。

世界の王に おごつたぜ

大きなニュースがあるなしにかかわらず一般紙もスポーツ紙も、ほぼ毎日発行している。ゆえにプロ野球ネタを中心とした記事で編集しているスポーツ紙の記者は公式戦がないオフシーズンは地獄になる。2月のキャンプインまでは、ネタを探して這いずり回ることになる。

ホーランド担当だった30年以上前、そのストレーブシーズンに当時の王貞治監督が世界少年野球大会の会合に出席すると聞いてネタをもらおうと目論んだ。王さんが必ず座る新幹線グリーン車の1番席近くを予約して乗り込んだ。ビングだった。王さんのすぐそばだった。席に座ると、ギヨロ目の王さんが「君も同じ車両か」と少し驚いていた。担当マネジャーは別の車両だし他社の記者たちもいない。私は心中で「万歳」を叫んだ。博多から京都まで独り占めで話が聞けるぞ！と。

王さんも私の思惑を知つてか、い

に食事をおごつたことがあるんだぜ」

墨を擦る

文 岡田 雄希

岡田 雄希 Yuki Okada

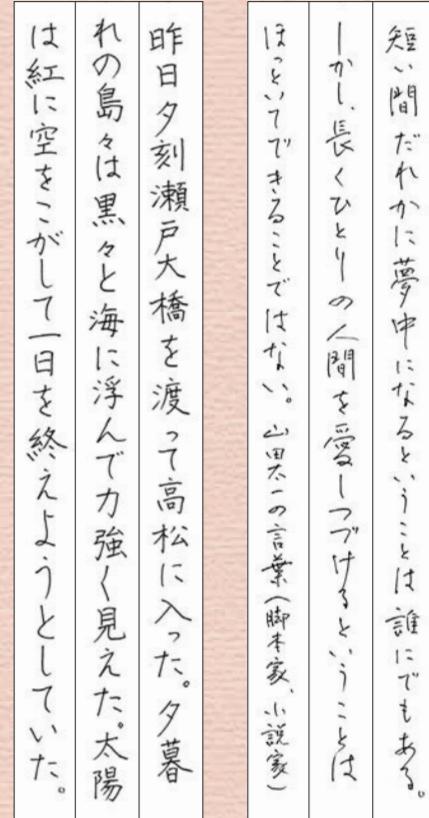
昭和33年3月20日、北九州市生まれ。平成23年12月に一凜に入門。
趣味は自転車と酒を飲むこと。酒は誘われたら断らないがモットー。

3月分課題は4月10日(火)が提出期限予定です。

諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。

みなさん、今月も頑張りましょう。

3月分 課題



《漢字 楷書》
10級～1級

《漢字 行書》
初段～五段

萌草動木

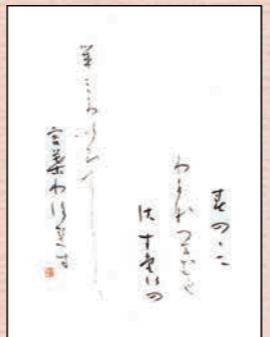
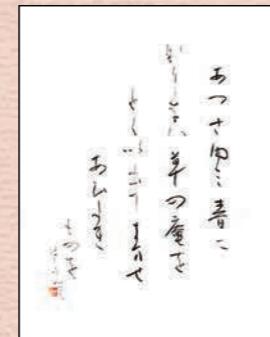
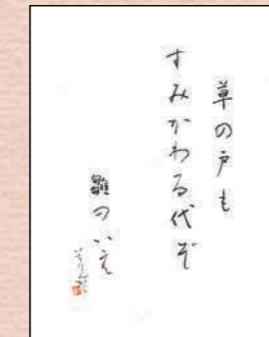
《漢字 楷書》
10級～1級

草萌動木

《漢字 行書》
初段～五段

遠仁者道萌草

《漢字 草書》
六段以上



《漢字 楷書》
10級～1級

《漢字 行書》
初段～五段

《漢字 草書》
六段以上

《かな》
10級～1級

《かな》
初段～五段

《かな》
六段以上

あづさ弓春になりなば
草の庵をとくい出てきませ
逢いたきものを

春の野に若菜つまむと
さすたけの
君がいひにし言葉忘れず

3月分課題は4月10日(火)が提出期限予定です。

諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。

みなさん、今月も頑張りましょう。

書道教室
一凜

Topics

▶ 2017年12月

『月刊一凜』創刊

書道教室一凜が発行する『月刊一凜』が創刊となりました。今までの競書審査結果に加え、佐々木先生の作品や教室に通われている岡田さん、小川さんのコラムなど見て楽しく読んでためになる充実した内容の冊子が完成しました。



▶ 2017年12月

2018年 チャリティカレンダー発売

2018年版のテーマは「花言葉」。大分から教室に通われている古川美樹さんにイラストをお願いし、色鮮やかで上品なカレンダーが仕上がりました。

みなさまのご協力で8万5839円の義援金が集まりました。この義援金は昨年の九州北部豪雨で被害に遭われた方々へ寄付させていただきました。

今後もこの活動は継続していくかと思つております。



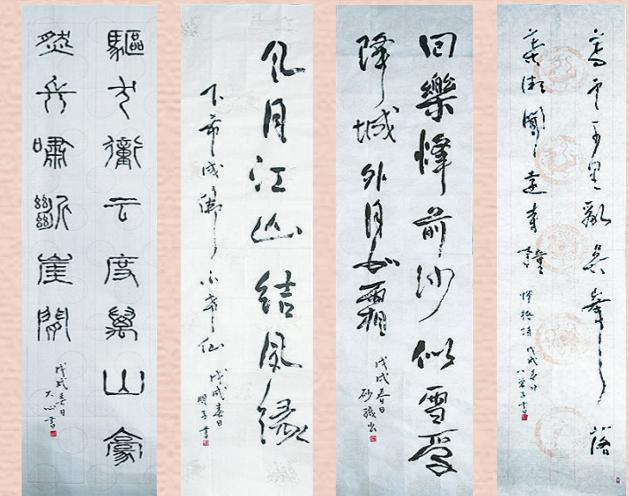
▶ 2018年2月

西日本新聞書道之友展へ今年も4名が出品

毎回、当教室の生徒さんが応募し、入選・入賞している『西日本新聞書道之友展』の募集が発表され、今回は4名の方が出品されました。

昨年よりも3ヶ月早い締め切りでしたが、みなさん最後まで諦めず頑張って仕上げられました。

詳しくは教室ホームページ「一凜日和」をご覧ください。



月曜日Cクラス
小川 大心

日曜日Aクラス
小田 明子

金曜日Aクラス
小川 砂織

土曜日Aクラス
村上 八栄子

仏教から生まれた日本語

「三昧(さんまい)」とはsamādhiの音写※で、雑念を捨て、精神を集中すること。無心で打ち込む、という仏教用語です。また「ぜいたく三昧」など、したい放題の意味でも使われます。

仏教では「人は一度に一つのことしか無心で打ち込むことが出来ない」と説いています。「ながら」ではそれが出来ないのです。

私たちの日常生活には想像以上に「ながら」が入り込んでいることに気づかれます。二つのことを同時にやることは効率的にも思えますが、時間は短縮できません。どれもが中途半端になります。

日常生活の「ながら」を一つずつ無くしていく。もちろん自分の好きなこと、出来ることからで良いのです。少しずつ「三昧」の時間を増やしてみてはいかがでしょうか。

月曜日Cクラス 小川大心

※音写(おんしゃ)…他の言語の文字を用いて書きつづること

今月の言葉

現在、九州国立博物館で、「王羲之と日本の書」が開催されています。当館長の隨筆「書の美、造形と余白」が以前新聞紙上に掲載されていました。その一部を抜粋して紹介していますので、書の鑑賞の参考にして頂ければと思います。

書には、執筆された内容の理解と美の鑑賞という、二つの大きな要素がある。一方、「書は読めないし、どう見ていのいかわからない」という書の鑑賞に苦手意識を持つ人が多いのも現実である。漢字文化圏や世界の書の爱好者から、書が高い評価を受けるのは、その内容だけではなく、書が多くの魅力を持っているからである。

絵画作品の製作過程や画題が分からぬから鑑賞しない、五線譜が読めないから音楽は聴かない、料理の仕方が分からぬので食べない、という方はいるでしょう。皆無とは思わないが、多くの方が絵画、音楽、料理などを、自らの好き嫌いで、鑑賞あるいは賞味していることに気付くであろう。つまり、書も読めたたらより理解は進むが、読みなくとも楽しく鑑賞できるのである。

書の基本は、線と造形である。

引かれた筆の線の美しさを見るのは、書の鑑賞の大好きな楽しみである。どの線が美しいと感じるかであるが、これもスポーツや舞台美術の動きと同じで、肌で感じることが肝要である。次は、漢字が持つ造形的な美しさを楽しむことである。名筆と呼ばれている作品の大部分が安定感を生み出す造形美を持っている。

もう一つ、余白の美しさが分かれれば、書の鑑賞は大半が理解できるといえるであろう。上手な人の場合、文字が書写されていない部分は余白となり、作品における空間の收まりがよい。こうした要素の一つでも理解すれば、書は楽しめる。他人の評価に左右されることなく、何よりも自分自身の目で、好きな美しい書を見つけて欲しい。